

令和元年6月19日現在

機関番号：22301

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2018

課題番号：15K01951

研究課題名(和文)世界遺産観光地と住民のエンパワーメントに関する研究

研究課題名(英文)Residents' empowerment and tourism in Unesco World Heritage Sites

研究代表者

丸山 奈穂 (Maruyama, Naho)

高崎経済大学・地域政策学部・准教授

研究者番号：60612603

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,200,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は世界遺産登録を保有する地域において、地域の観光地化への住民参加や、それらに対するバリアの有無を探り、観光地化がどのように住民のエンパワーメントへの手段となり得るかを探ることを目的とした。調査は、群馬県富岡市の富岡製糸場周辺地域および栃木県日光市の日光の社寺周辺地域で行われた。本研究の成果の一つとして、住民参加に対するバリアの種類や、バリアが住民参加に与える影響が地域の観光事業の成熟度および重要度によって違うことを示唆した点が挙げられる。また、観光地化が始まる前に住民に与えられる情報や、プロモーションの方法に関してもいくつかの問題点を指摘した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

地域の観光事業を持続可能なものにするためには、住民のエンパワーメントが重要であり、住民のエンパワーメントは、住民参加によって可能になるといわれている。本研究によって、住民参加へのバリアや希望は地域や個人的な背景によって違うことが明らかになった。このことは、学術的及び社会的に意義があると考えられる。今後の研究では、住民参加を妨げるものや、住民の直接参加以外の方法を探っていくことが必要と考えられる。

研究成果の概要(英文)：The goal of this research was to explore whether and how tourism development in the areas with UNESCO World Heritage Sites (WHS) can be a medium through which the residents in the areas become empowered. Observation, face-to-face interviews, and surveys were conducted in two cities with WHSs, namely, Nikko city, Tochigi and Tomioka city, Gunma. The analysis indicated that residents' perception of costs and benefits of participating in the tourism projects and its influence on their preference to participation as well as the actual participation levels vary between the two places. Arguably, this may be because the economic and social significance of tourism in each city differs. In addition, in Tomioka city, the representation of mill girls reflects the persistent gender injustice in the mill. While the mill girls were economically exploited as the mill was in operation, after the mill was designated a UNESCO World Heritage Site, the form of injustice changes into cultural imperialism.

研究分野：観光学

キーワード：世界遺産 住民参加 地域づくり エンパワーメント 日光の社寺 富岡製糸場

## 1. 研究開始当初の背景

近年、国内では世界遺産に対する興味が高まっている。2013年の富士山(「信仰の対象と芸術の源泉」)文化遺産登録に始まり、2018年の長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産まで毎年続けて日本国内の遺産が世界遺産として登録されたことから、観光客のみならず、地域おこしのための起爆剤として地域住民から期待が寄せられている。世界遺産を保有する地域における観光地化への住民参加や、住民のエンパワーメントに関する研究は少ない(柴崎他 2008)。しかし、世界遺産を保有する地域における観光地化での住民参加や、住民のエンパワーメントに関する研究は少ない。

エンパワーメントとは、個人やグループが自身のことに関して決断力を持つことであり、人々が自分の生活に影響を与える事柄に関してコントロール感を持つプロセスと定義される(Fetterman 2001)。特に、観光地化においては、観光地化を持続可能なものにするためには地域住民の参加が不可欠と言われているが、住民参加とエンパワーメントは強く関連していると考えられている(Cole 2006)。

しかし、観光地化における住民参加やエンパワーメントを困難にするバリアの存在も指摘されている。例えば、「地域の住民」といっても、その地域コミュニティは、必ずしも固定的かつ均質ではなく、むしろ、年齢や性別、経済状況、家族関係、観光地からの距離、情報量、関連機関との関連性などによって内部で分裂している場合が少なくない(Crehan1997)。これらの場合、意思決定のプロセスに誰が参加し、誰が参加しないか、また観光地化による利益を誰が享受し、誰が享受しないか、という問題につながる(Cole 2006)。しかし、地域間や地域内における住民参加やエンパワーメントのレベルの違い及びその原因や解決方法に関する研究はまだあまり成されていなかった。

申請者はこれまでエスニックマイノリティと観光に関する研究を、特に住民の視点から多く行ってきた(e.g., Maruyama 他 2008, 2015, 2016, 2017)。研究を通して、申請者は、同じ「地域コミュニティ」のなかでも積極的に観光地化のプロセスに参加する(できる)グループと、そうではないグループがあることに気付いた。特に、先行研究では、エスニックマイノリティの人々が意思決定に参加できないケースが多く報告されているが、申請者の行った研究は、エスニックマジョリティ(日本における日本人)のなかでも参加の度合いやエンパワーメントのレベルに格差があることを指摘した(丸山 2014)。今後も国内外の各地で世界遺産登録を通じた観光誘客の動きが盛んになることが予想されるなか、世界遺産観光を通じたまちづくりへの住民参加とそれに伴うエンパワーメントに関する研究が必要と痛感し、本研究を申請するに至った。

## 2. 研究の目的

世界遺産登録を保有する地域において、地域の観光地化への住民参加や、それらに対するバリアの有無を探り、観光地化がどのように住民のエンパワーメントへの手段となり得るかを探ることである。同様の研究がまだあまりなされていないため、基礎的な知見を得ることを目標

とし、調査は、主に、群馬県富岡市の富岡製糸場周辺地域および栃木県日光市の日光の社寺周辺地域で行われた。

### 3. 研究方法

- (1) 世界遺産の観光地化に関する論文の精査に加えて、観光地化が始まる以前から現在までの、該当地域に関する新聞や雑誌記事を比較し、地域における遺産やその観光利用に関する説明の変化を追った。また、地域の歴史や政策に関しても同時に調べた。
- (2) 両地域において、キーパーソン（観光協会や自治体職員、ツアーガイド、観光業に従事している方等）を対象に観光地化に関する考えや観光地化による地域の変化についてインタビュー調査を実施した。富岡市では5名、日光区では6名の方にインタビューを実施した。
- (3) 2017年度にオーストラリア、ニューサウスウェールズ州ニューカッスルを訪れ、類似の研究を実施している研究者との研究交流を実施し、意向の研究への協力体制を作った。
- (4) 富岡市および日光市以外の国内の世界遺産保有地域（東京都台東区上野、和歌山県白浜町）などを訪れ、見学、資料収集、聞き取り調査などを行った。
- (5) (1)から(4)の研究結果を元に、富岡市および日光市の住民を対象にアンケートを実施した。アンケートはそれぞれの地域を20程度の区画に分け、それぞれの区画内のランダムに選んだ場所をスタート地点とし、そこから一軒置きに訪問をする方法（a multi-stage cluster sampling method）を採用した。アンケートは2016年11月から2018年7月にかけて実施され富岡市住民605名、日光市民643名から回収した。

#### 4-1. 研究成果

本研究の成果として挙げられる内容は多岐に渡る。特に、本研究を執筆している時点では、掲載が確定していない論文および執筆中の論文が数点あり、学会および論文発表が2019年度以降にずれ込む見込みである。そのうえで、ここでは、日光および富岡に共通する調査項目からの結果(1,2)およびそれぞれの地域特有の調査項目からの結果(3,4,5,6)に大別し説明する。

(1) 本研究では、地域の観光事業に住民が参加する際のバリアと、そのバリアが実際の参画度に与える影響度や、それらの地域差を探ることが目的であった。先行研究（Wandersman et al. 1987）によると、コミュニティ活動への市民参加には、市民が感じている参加によるメリットとデメリットが大きく影響することがわかっている。そこで、本研究では、富岡市および日光市において、市民が観光事業に参加（市民集会、イベントなど）することにどのようなメリットとデメリットを感じているか、そしてそれらがどのように住民の参画度に影響を与えているかを探った。アンケート調査によると、メリット、デメリットのそれぞれに二つずつの因子があり、メリットに関しては、日光市住民が「他人を助けることができる」という点において、富岡市民よりメリットを感じていることが分かった。デメリットに関しては、地域間に差

はなかった。また、住民の参画度（1 因子）に関しては、日光のほうが富岡より有意に高かった。また、日光においては、メリット、デメリットのすべての因子が市民の参画に影響を与えているのに対し、富岡市では、メリットの1 因子のみが影響を与えることが分かった。この差は観光地としての成熟度および規模にあると考えられる。日光市では、観光が主要産業の一つであり、観光事業が住民の生活に直接影響を与える場面が多いため、住民も能動的に参画について考えることが多いからだといえよう。

（2）観光への住民参加は、住民のエンパワーメントおよび観光地の持続可能性に大きな影響を与えるといわれている（Cole 2006）。一方で、すべての住民が、同じように地域の観光事業に参加したいと感じていない可能性も指摘されている（Tosun 2000; Zhan et al. 2003）。本研究では、各地域によって、バリアと参画に関する意向（Preference）の関係を分析した。分析によって、富岡市ではメリットの1 因子（「他人を助けることができる」）が「全てのプロセスへの参加希望」に影響し、コストの1 因子（「他人に対する不安」）が「一部のプロセスへの参加希望」に影響することがわかった。一方、日光では、「全参加」に関してはメリット1 因子（「他人を助ける」）とコスト1 因子（「時間や努力の消耗」）が影響を与え、一部参加希望に関しては、すべての因子（「他人を助ける」、「個人的な利益」、「時間や努力の消耗」、「他人に対する不安」）が影響を与えることが分かった。これは、1）の結果と同様、観光事業が住民生活に与える影響による差だと考えられる。

（3）観光を持続的なものにするために、住民の観光事業や観光者への前向きな態度が必要不可欠だと言われている（Choi & Murray 2010）。本研究では、富岡市の住民を対象に、地域への愛着、プランニングへの参加、および政府や民間の観光事業者に対する信頼の3 項目がどのように住民の態度に影響を与えるかを分析した。分析を通して、観光事業への態度は4 因子に分けられ、プランニングへの参加や地域への愛着はそのうちの1 因子のみに影響を与えることが分かった。一方で、「事業者に対する信頼」は4 因子すべてに有意な影響を与えていることがわかった。

（4）本研究では、群馬県富岡市において、期待不一致モデル（Expectation-disconfirmation model）（Yukseil & Yukseil 2001）を使い、地域住民の世界遺産登録に関する満足度を探ることを目的とし、世界遺産登録前の期待と登録後の実感（知覚）の差が満足度にどのように影響を与えるかを探った。アンケート調査の結果、ほとんどの項目において、期待と知覚の差が有意に大きく、登録前に住民が正確な情報を得ていないことが明らかになった。また、特に環境面への好影響に関する不一致が世界遺産登録に関する満足度に影響を与えることが分かった。

（5）本研究では、特に富岡市において特に女性のエンパワーメントに関して調査を進める中で、女工の表象に注目した。質的研究（文献調査、プロモーション関連資料、聞き取り調査など）を通して、富岡製糸場の女工がどのように観光者に対して見せられているかを分析した。分析を通じて、富岡製糸場の中では、製糸の技術に関する展示が主であり、かつての女工の就労状況や経験についての展示は限られている反面、製糸場周辺地域では、女工をモチーフとしたマスコットがプロモーションのために起用されていることが分かった。それらのマスコット

は、従順である、人をたてる、など「女性らしさ」を前面に出した役割が与えられている(Goffman, 1979)。これらのことから、富岡製糸場周辺の観光プロモーションは、継続的な性的不公平を反映していることが明らかになった。言い換えれば、製糸場が工場として稼動していたころには女工は労働力として経済的に抑圧・搾取(Injustice)され、世界遺産になってからは男性目線による表象が行われ、女工自身の経験は展示されていない文化的な抑圧が行われていることが考えられよう。

(6) 日光においては、外国人観光客の増加が顕著であり、観光者の出身地もアジア地域に限らず、アメリカやヨーロッパなど多岐に渡っている。本研究の目的は、住民の観光者に対する印象(アジア系およびヨーロッパ系)と、その印象が観光事業に対する態度に与える影響を調べることであった。分析によって、観光客に対する印象は 15 アイテム中 12 アイテムにおいて、ヨーロッパ系に対しての印象がアジア人に対する印象より良い印象であることが明らかになった。しかし、観光に対する態度に与える影響は、アジア人のほうが強いことが分かった。これは、アジア人観光者との文化的距離が近い分、相手に対して批判的に評価をしていることが考えられる。

#### 4-2 今後の展望

1,2の研究においては、地域間の差を分析してきた。次のステップとして、地域内で属性などによる差がないかを探る。また、3,4に関しても、個人属性などによる差がないかを探る。また、1から4に関しては、住民の参画や満足度がどのようにエンパワメントにつながるかをさらに分析する。6に関しては、観光者との普段の交流や、参画度を分析に加えたい。

#### 引用文献

- Choi, H. C., & Murray, I. (2010). Resident attitudes toward sustainable community tourism. *Journal of Sustainable Tourism*, 18(4), 575-594. Yüksel, A., & Yüksel, F. (2001). The expectancy-disconfirmation paradigm: a critique. *Journal of Hospitality & Tourism Research*, 25(2), 107-131.
- Cole, S. (2006). Information and empowerment: The keys to achieving sustainable tourism. *Journal of sustainable tourism*, 14(6), 629-644.
- Crehan, K. A. (1997). *The fractured community: landscapes of power and gender in rural Zambia*. Berkeley, CA: Univ of California Press.
- Fetterman, D. M. (2001). *Foundations of empowerment evaluation*. Thousand Oaks, CA: Sage.
- Goffman, E. (1979). *Gender advertisements*: Macmillan International Higher Education.
- Maruyama, N. U., Woosnam, K. M., & Boley, B. B. (2016). Comparing levels of resident empowerment among two culturally diverse resident populations in Oizumi, Gunma, Japan. *Journal of Sustainable Tourism*, 24(10), 1442-1460.

- Maruyama, N. U., Woosnam, K. M., & Boley, B. B. (2017). Who is ethnic neighborhood tourism for anyway? Considering perspectives of the dominant cultural group. *International Journal of Tourism Research*, 19(6), 727-735.
- Maruyama, N., & Woosnam, K. M. (2015). Residents' ethnic attitudes and support for ethnic neighborhood tourism: The case of a Brazilian town in Japan. *Tourism Management*, 50, 225-237.
- Tosun, C. (2000). Limits to community participation in the tourism development process in developing countries. *Tourism Management*, 21(6), 613-633.
- Wandersman, A., Florin, P., Friedmann, R., & Meier, R. (1987). *Who participates, who does not, and why? An analysis of voluntary neighborhood organizations in the United States and Israel*. Paper presented at the Sociological Forum.
- Zhang, Y., Cole, S. T., & Chancellor, C. H. (2013). Residents' preferences for involvement in tourism development and influences from individual profiles. *Tourism Planning & Development*, 10(3), 267-284.
- 丸山奈穂. (2014). 外国人街の観光地化と民族関係: 群馬県大泉町のブラジル人街を例に. *地域政策研究*, 17(2), 57-68.
- 柴崎茂光. (2008). 世界遺産登録は有効な地域振興策か?--鹿児島県屋久島を事例として. *国立公園*(666), 19-22.

## 5. 主な発表論文等

[雑誌論文] 主な研究論文 (掲載予定3点)

丸山奈穂 (2019). 世界遺産登録に対する住民の態度 - 期待不一致理論による分析 - *地域政策研究*, 22(1), 掲載予定(査読無し)

丸山奈穂 (2019). Residents' participation in tourism planning at WHS sites: Analysis of costs and benefits *地域政策研究*, 22(2), 掲載予定(査読無し)

Maruyama, N., Woosnam, K. (2019) Representation of "Mill Girls" at a UNESCO World Heritage Site in Gunma, Japan. *Journal of Sustainable Tourism (Special issue in Justice)* 掲載予定(査読有り)

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。